

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 7 部門第 1 区分

【発行日】平成20年2月7日(2008.2.7)

【公開番号】特開2006-269132(P2006-269132A)

【公開日】平成18年10月5日(2006.10.5)

【年通号数】公開・登録公報2006-039

【出願番号】特願2005-82618(P2005-82618)

【国際特許分類】

F 2 1 V 19/00 (2006.01)

F 2 1 V 17/06 (2006.01)

F 2 1 S 6/00 (2006.01)

F 2 1 Y 103/02 (2006.01)

【F I】

F 2 1 V 19/00 3 5 0 H

F 2 1 V 17/06 G

F 2 1 S 1/12 L

F 2 1 Y 103:02

【手続補正書】

【提出日】平成19年12月14日(2007.12.14)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 1 3

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 1 3】

以下、本発明の実施形態について、図 1 乃至図 6 に基づいて説明する。なお、図 2 において、図面の右側が前である。1 は電気スタンドである。この電気スタンド 1 は、平坦な形状の基部 2 と、この基部 2 の後方に立設された支柱部 3 と、この支柱部 3 の上部に設けられた関節部 4 と、この関節部 4 によって前記支柱部 3 に対して基端が揺動自在に取り付けられた腕部 5 と、この腕部 5 の先端に取り付けられた関節部 6 と、この関節部 6 によって前記腕部 5 に対して基端が揺動自在に取り付けられた灯具 7 とで構成されている。そして、前記支柱部 3 の内部には、後述する光源としての蛍光灯 13 を点灯させるための図示しない点灯回路が収容されていると共に、前記支柱部 3 の前方には、前記点灯回路のためのスイッチ 8 が設けられている。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 1 4

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 1 4】

前記灯具 7 について詳述する。この灯具 7 は、収容部 9 と、この収容部 9 と一体に設けられた下セード体 10 と、これら収容部 9 及び下セード体 10 を上方から覆う上セード体 11 と、前記収容部 9 内に設けられたソケット 12 と、このソケット 12 に対して着脱自在に取り付けられる光源たる環状蛍光灯 13 とを有して構成されている。前記収容部 9 は、その下端部が前記関節部 6 を介して前記腕部 5 の先端に接続されている。また、前記収容部 9 は上方に開口部 9A が形成されており、この開口部 9A から前記ソケット 12 が出没自在に設けられている。なお、前記ソケット 12 は、取付体 14 によって、前記環状蛍光灯 13 の口金ピンを接続する接続部位 12A が後斜め上を向いた姿勢で保持されると共

に、この姿勢を保ったまま、前記収容部 9 に形成されたガイド溝 9 B に沿って上下方向に摺動可能に取り付けられている。即ち、前記取付体 1 4 によって前記ソケット 1 2 が上下方向に摺動することで、前記ソケット 1 2 が前記収容部 9 に対して出沒する。なお、図 4 及び 5 では記載を一部省略したが、前記点灯回路とソケット 1 2 の間には、前記支柱部 3 から前記関節部 4、前記腕部 5、前記関節部 6 を経て前記収容部 9 に至る電気コード 1 2 B が設けられている。また、前記した下セード体 1 0 は略環状に形成されており、前記収容部 9 と同様に上方が開口していると共に、下方に前記環状蛍光灯 1 3 から放射された光が通過する透光部 1 5 が形成されている。更に、前記下セード体 1 0 には、前記環状蛍光灯 1 3 を保持するための複数の保持体 1 6 が設けられている。また、前記上セード体 1 1 は、前記下セード体 1 0 と同様に、略環状に形成されており、下方が開口していると共に、内周側に放熱用のスリット 1 7 が形成されている。更に、前記上セード体 1 1 には、前記環状蛍光灯 1 3 から放射された光を反射するための反射板 1 8 が取り付けられている。そして、上方が開口した前記収容部 9 と下セード体 1 0 に、下方が開口した前記上セード体 1 1 を取り付けることによって形成された環状の空間 S 内に、前記環状蛍光灯 1 3 が収容されることになる。なお、前記環状蛍光灯 1 3 は、F H C 型と呼ばれる高周波点灯専用のものである。